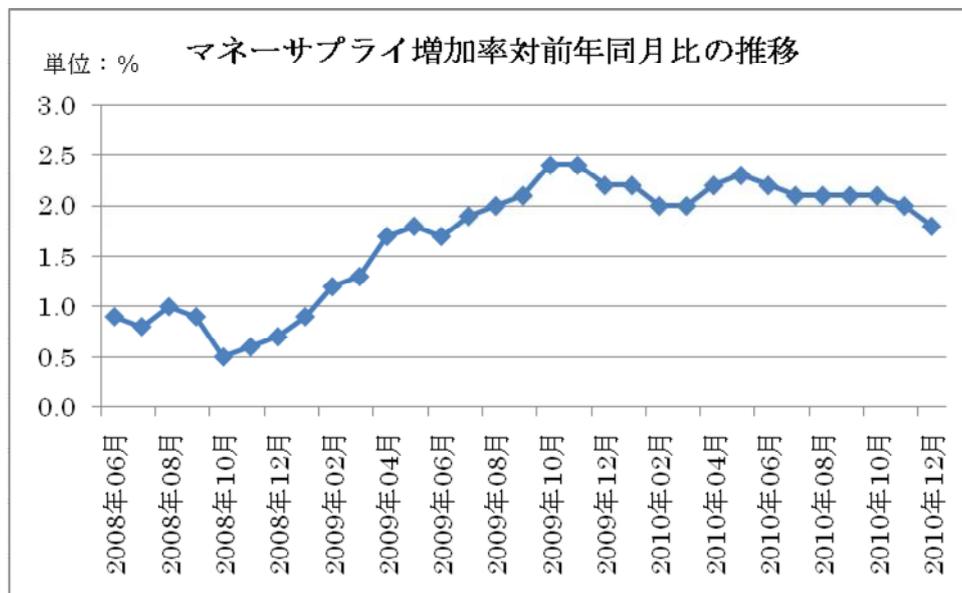
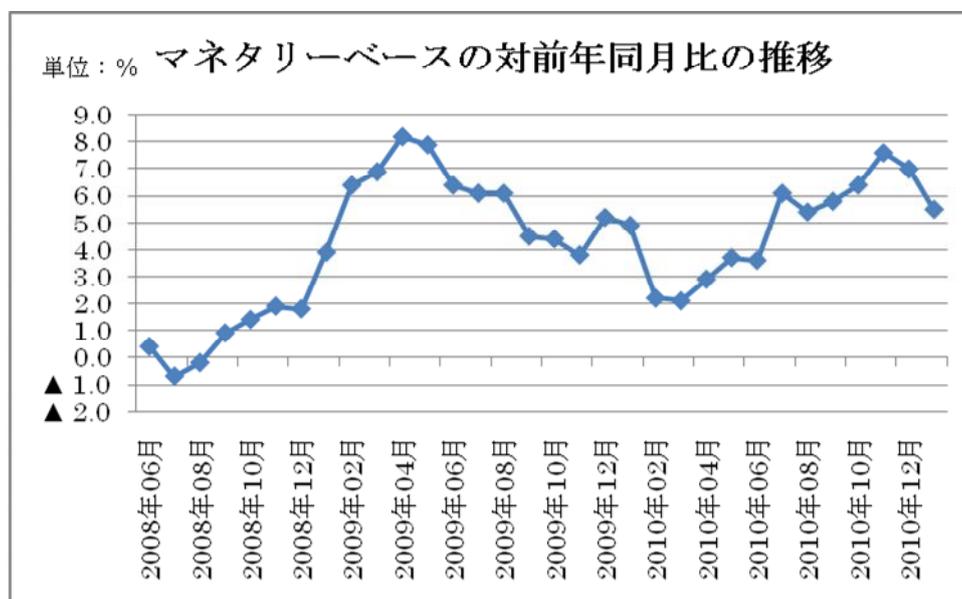


2. 金融に関する指標

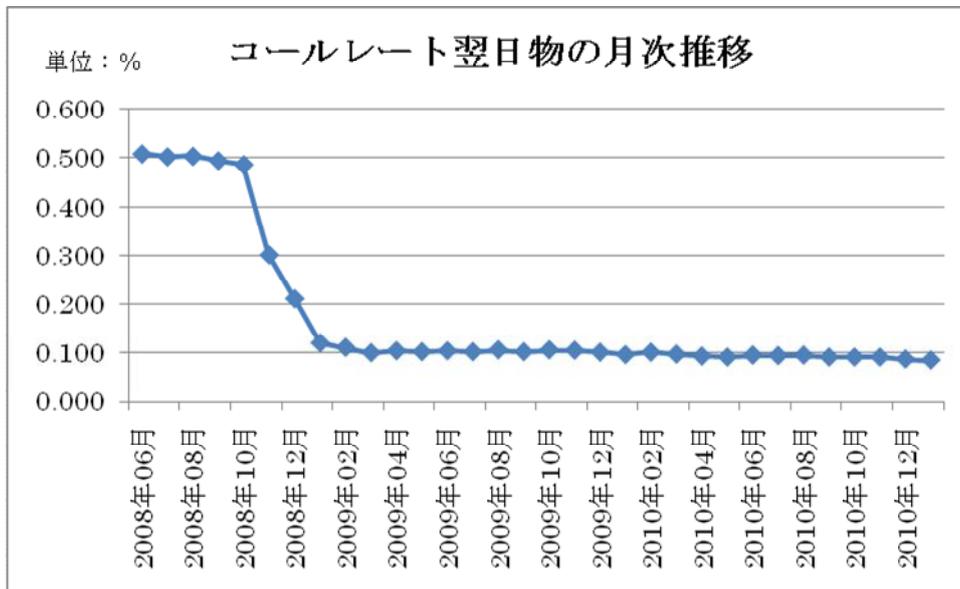


マネーサプライ（M3）とは世の中に出回っているお金の流通量を指します。景気が良くなるとマネーサプライは膨張し、景気が悪くなると減少します。

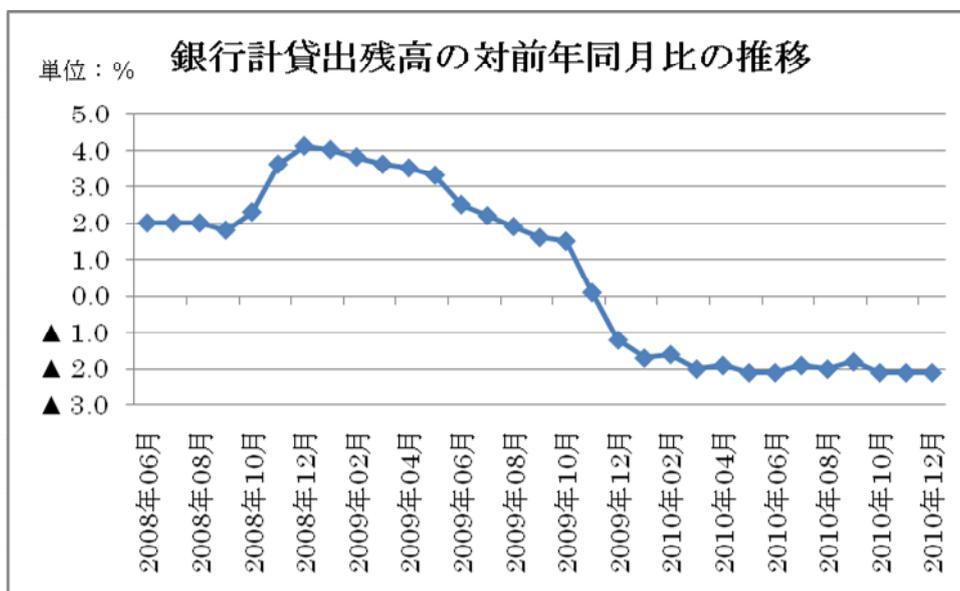
マネーサプライは2008年までは「M2（現金通貨＋預金）＋CD」で表示していましたが2009年以降は日銀の統計見直しによりM3に変更になっています。



マネタリーベースとは現金通貨（日銀が発行できるお金）と金融機関が日銀に預けているお金である日銀当座預金の残高を指します。日銀はマネタリーベースを増減する事によって、世の中に出回っているお金の量を調整しています。マネーサプライに強い影響力があるので、ハイパワードマネーとも呼ばれています。2011年11月をピークに減少傾向にあります。



コールレートとは金融機関同士がお金を貸し借りするマネーマーケットでの取引金利を指します。コール市場で1日だけお金を貸し出す際の金利を「コールレート翌日物」と言い、政府日銀が唯一コントロールできる金利です。政策金利と考えて構いません。

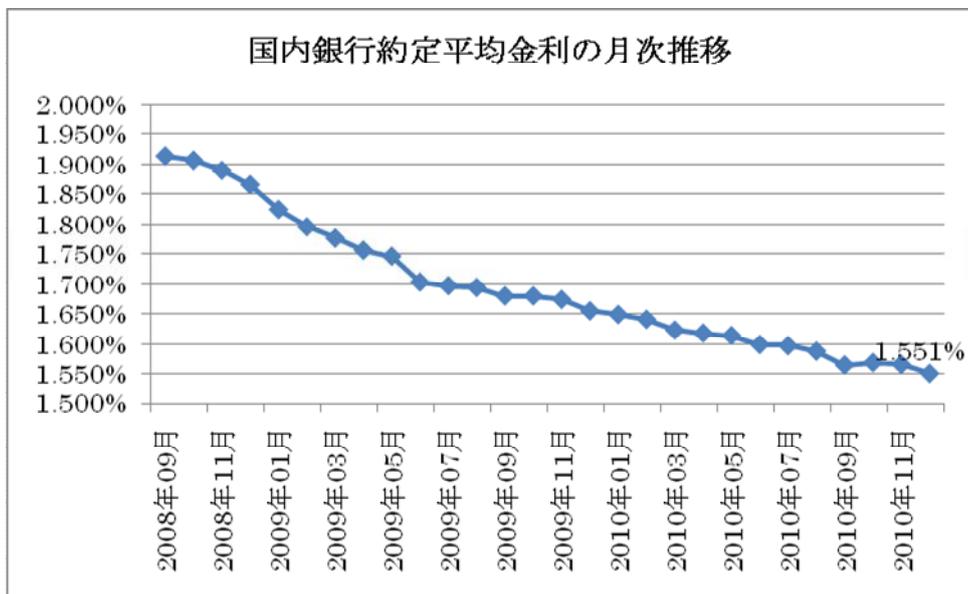


銀行計貸出残高とは都市銀行、地方銀行、信託銀行等の銀行貸出残高を合計したものを指します。一般に景気が良くなれば貸出残高は増加しますが、今回のような金融危機で企業が社債の発行が出来なくなったり、政府の緊急経済対策による中小企業への貸出に対する保証枠の設定により銀行貸出残高が伸びる場合もあります。2009年12月より13カ月連続で貸出残高が減少しています。銀行は現在、貸出残高が減少した分、国債ばかりでなく政府の買取りにより実質的にリスクのなくなったETFやJ-REITの購入に充てています。



新規発行 10 年国債利回り（月末終値ベース）は額面の金利でなく、市場での取引価格に基づく実質的な利回りを意味します。

2010 年 11 月から上昇に転じています。



国内銀行貸出約定平均金利は金融機関が過去に貸出を行なった際の金利を、現在の貸出残高で加重平均した数字で、銀行が貸出を行なった金利の水準がわかります。

10 年国債が上昇傾向に転じていますが、貸出金利は一貫して低い状況にあります。